

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100331		
法人名	社会福祉法人眉丈会		
事業所名	新堅縁(グループホーム・5丁目)		
所在地	石川県金沢市下本多町五番丁14番地		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイ・ワイ・エイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	令和2年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、共同生活の中で調理や掃除、買い物などこれまで自分でされていた事を一人ひとりが役割を持ちながら職員と一緒にしています。ご利用者一人ひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、「自力」の支援を行う事で「まだ自分は出来る」「誰かの役に立てる」と自信を持ち生きがいを感じられるよう努めています。また、ご家族のご協力も頂きながら、馴染みのある場所や人との繋がりを大切にし、その縁を強くする事で、その人らしい人生を送り法人理念である「居甲斐」のある生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「居甲斐」に基づき、利用者一人ひとりに役割を持ち、ここに居る意味があると感じて頂けるよう職員は実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や近くの商店街での買い物また、地域施設での教室の参加も行い地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で地域住民代表の方と情報交換を行っている。 利用者のご家族の方にも積極的に参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者やご家族にも参加してもらい、満足度や意見をお聞きしながらサービスの向上を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほか、行政へは事業に関する相談など電話にて随時行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っているケアについて職員同士確認し合い様々な場面で拘束にならないよう指導している。 玄関施錠に関しては防犯の意味もあり施錠することもあるが、「外を歩きたい」など利用者の要望には極力応えられるよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する勉強会を開催し、理解を深めている ケース会議やミーティングなどでも拘束が行われていないか確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者の中で制度の活用まで至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に事業所見学を行って頂き、事業所の方針や支援方法についての説明を行っている また、契約の締結時には契約書および重要事項説明書に基づいてサービスの内容説明を行い、理解・納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一階に誰もが記入できる意見ボックスを設置し、要望や意見をお聞きしたり、ご家族来訪時には必ず一声かけコミュニケーションを図っている。 また、利用者からも気軽に意見、要望が聞けるよう普段から会話の中から聞いたり、月に一回町内会を開き意見や要望を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングやケース会議を開催し、自由に意見を言ったり提案を行える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を確認し、極力希望に沿う形で勤務できるよう配慮している不定期ではあるが、上司との面談を行い、職員が意欲的に働けるような職場環境となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルアップのため、法人内外の研修を受講させたり、随時勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修等を通じ、同業者との交流を図れるよう配慮している。また、そこで得たものを当事業所での実践に生かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心した生活を送れるよう、不安や心配に思っていること、興味のあることや要望、それらに傾聴しながら本人との信頼のある関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時には本人のアセスメントを記入し、家族の要望などを傾聴し、信頼関係に努めている。 また、ご家族の来訪時には必ずお声をかけ、不安なことや要望、困っていることをお聞きしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がどのような支援を求めているのか聞き取りを行い、その後もついても、安心して利用できるようにその都度提案や相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を常に尊敬する心を持ち、コミュニケーションを図りながら信頼を持てる関係を築くことで共に充実した生活を送れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら、家族との信頼関係を築くことにも努め、職員と家族とで情報を共有し、ともに本人を支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から電話したり、来訪して頂き実際にお会いできるよう交流を大切に見守りつつ支援を行い、本人の大切な人や馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いに協力、支え合い生活している。時折利用者同士で混乱など見られたときは職員が間に入り、利用者全員が落ち着いて生活できるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、本人・家族が今後の介護について不安を感じないように相談や支援を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに生活の仕方について、希望や思いをお聞きし職員間で伝達し共有を図り把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入して頂いたアセスメントを参考にまた、生活の中での会話の中でこれまでの暮らし方をお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活の流れを把握することでその人に合った支援を提供するよう努めている。また、普段と違う様子が見えた際は職員間で伝達し、安心して生活して頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に記録したケースなどを参考に本人・家族とも話し合う。職員間ではカンファレンスの時間を設け、個々の現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつでも本人の状態がわかるように毎日の様子や変化などを記録している。また、月一回のミーティングを行い職員間で情報を共有し、個別にその人に合った支援を提供するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、様々な状況その都度出てくるニーズを職員間で話し合うことで一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設にボランティアの方々を招き、刺激のある生活になるような機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族を含め、本人が信頼している病院や医師への受診を継続し、本人の状態を医師に報告したりと適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化にも気付けるよう心がけ、看護師に相談や報告を行っている。また、受けた報告は全職員が把握できるようしっかりと伝達を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、現在の状況を書面で報告し、入院中も時には訪問も行い医療機関との連携をとるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族と本人に当事業所の方針についても説明している。終末期についても今後も状況を見ながら本人や家族と相談し、主治医を含む関係者でバックアップ体制を検討していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、発生時も慌てずに初期対応・通報ができるよう備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	いつでも対処できるようわかりやすい場所に緊急時対応マニュアルを置いている。また、個々に救急搬送先も把握するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関や法人内の福祉施設等との支援体制は確保されている。福祉施設に関しては、隣接している金澤五番丁の喫茶の利用やコンサート、カルチャー教室などに参加し、連携を図っている。その他の法人事業所ともイベントや勉強会などで交流を図っている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時マニュアルを基本に他ユニットの夜勤職員や、宿直職員への報告をし、協力し合える体制をとっている。また、夜勤リーダーも設置し、全フロアの夜間帯の状態把握に努めている。夜間も協力医療機関との連携を図れるようになっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する金澤五番丁(特養)と合同で、年に二回防災センター職員指導の下、訓練を行っている。また、自主的な避難訓練では利用者と職員が一緒に行っている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難訓練時に職員と本人が念入りに再確認を行い、避難先や避難経路の具体的な理解をしている。職員が消火栓や消化器の位置を確認しておき、災害時に慌てることなく対応できるよう努めていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに関わることは決して他利用者の前では話さず、一人ひとりの人格を尊重し対応をしている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から会話の中でやりたい事、行きたい所食べたいものを気軽に話せるようコミュニケーションを行いま、町内会を開くなど本人の思いを聞ける場所を設けている。思いや希望があれば職員は工夫し、思いに沿った支援を行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からその人らしい生活が送れるよう、どのように過ごしたいかなどを一人ひとりに聞きながら支援している。家事などについても職員で決めるのではなくその日の体調や意欲などを考慮し交代で行って頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみができるよう声かけ見守りを行いました、お気に入りの洋服を着ていただくよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷蔵庫の中の食材を見ながら職員、利用者で食事メニューを考え一緒に調理や食事、後片付けを行っている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キッチンにお茶ポットと湯呑みを共に常備し本人が飲みたいときに飲んで頂いている。水分摂取量の少ない方には声かけの工夫をしながら日中・夜間共に飲んで頂いている。食事の栄養バランスについては栄養士にアドバイスをもらっている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室の目につく場所にコップ・歯ブラシを置いて頂き毎食後口腔ケアを行って頂いている。また、必要ならば職員から声かけ見守りを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の羞恥心を大切に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはご家族からヤクルトを持って来て頂いている。医師に相談し、下剤を処方してもらっている。また、毎日排便確認を行い、排便の把握を行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの1週間の予定も配慮し、利用者の希望も入れつつ浴して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不調や疲れが見られる時は声かけを行い、休息をとって頂いている。また、夜間は居室内の室温を気にかけ、空調管理に気を配り安眠して頂けるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法等がすぐわかるようファイルにまとめ、すぐに取り出せる所に保管してある。また、服薬の変更等があった場合は職員一人ひとりがしっかりと把握出来るよう伝達を行っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの喜びを引き出せるよう、日常の中で役割を持って頂くよう支援している。また、ドライブや買い物、行事や教室への参加を促し楽しみ事を持って頂けるように努めている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は散歩やドライブに行ったり、買い物に出かけたいと気軽に外へ出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得ながら普段行けないような場所にも外出している。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力や本人の意思を尊重して自己管理している方と、職員側でお預かりしている方が買い物に行った時など本人の持ち寄る範囲で買いたい物を購入される。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に家族や知人に対して電話で連絡をとられている。携帯電話をお持ちの方は携帯電話で連絡を取られるが、お持ちでない方は金澤五番丁の公衆電話から連絡をとられている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が摘んできた花などを飾って頂き、生活感を出しお正月には飾り物等を置き、季節感を彩り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の景色の良い窓際に椅子を置くなどし、独りで落ち着いた空間が持てるよう工夫している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、自宅で使用していた物や傍にあれば安心するものを身近に置いて頂き居心地よく過ごせる工夫を行っている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」「出来ないこと」をしっかりと把握し、「出来ること」は継続していただけるよう生活の中で工夫している		